日経MJ
6月15日(水曜日)
月/水/金 発行

都市のおカネ 地方に

サイモンズ、「ふるさと納税型」共通ポイント

出身地などの自治体に寄付すると税金の一部が控除される「ふるさと納税」と同じように、ポイントで地域貢献できるカードが今、注目を集めている。サイモンズ（東京・中央）は自治体やプロスポーツクラブなど各地のポイントカードをつなげる。斉川満社長の「都市のお金を地方に流す」理念に共鳴する事業者は約500にのぼり、ゆるく社会貢献したい今の消費者の心をとらえつつある。

異能経営

温泉で有名な登別、洞爺湖に近い、人口3万5千人の北海道伊達市。今年3月にポイントカード「伊達まちカード」の発行を始めたところ、3カ月で市民の1割強の4千人が会員登録した。伊達市民なら買い物だけでなく、市の体育館やプールの利用、健康診断を受けてもポイントがたまるユニークなサービスを提供したことが受けている。

実は市民以外でも333人が登録した。このカードは伊達市内の商業施設だけでなく、サイモンズに加盟する全国333店での買い物でも購入額の1%相当のポイントがたまる。サイモンズの主要観光施設ならどこでも使える共通ポイントカードを発行。現在の会員は1500人で、ほとんどが観光客だ。「町の主要産業は観光だが8割は日帰り。『外貨』をより稼ぐには観光客のデータベースづくりが欠かせない」（竹富町）としてサイモンズに加盟した。

これまで地域のポイントカードといえば寄与市町村単位。各地のポイントカード事業者をネットワーク化するサイモンズは、より広域で共通ポイントを使えるようにすることで、より広域で共通ポイントを使えるようにすることで、より広域で共通ポイントを使えるようにすることで